

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

研究組織 二神葉子、塩谷純、江村知子、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、城野誠治、谷口母子、安岡みのり、酒井かれん、横尾千穂(以上、文化財情報資料部)
 広報委員(情報システム部会)：友田正彦(文化遺産国際協力センター長) 各部署情報システム部会員：安達佳弘、鈴木道夫(以上、研究支援推進部)、橘川英規(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存修復科学センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)
 広報委員(年報部会)：早川泰弘(副所長) 各部署年報部会員：井上裕介、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、前原恵美(無形文化遺産部)、佐藤嘉則(保存修復科学センター)、金井健(文化遺産国際協力センター)

目的 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行うとともに、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。

成果

1. デジタル画像の形成方法の研究開発

ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携し、奈良国立博物館所蔵の仏画、黒田記念館所蔵黒田清輝作品のうち油彩画、首里城火災による被災文化財などの文化財の光学的調査、記録作成を実施し、一部は報告書を編纂した。また、成果を論文等で発表した。

イ) 『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』を2021(令和3)年6月30日付、『国宝 絹本着色春日権現験記巻十一・巻十二 光学調査報告書』を2022(令和4)年3月15日付で刊行した。

ウ) 沖縄県立博物館・美術館と共同で、同館所蔵の仲座久雄撮影ガラス乾板及び関連調査を行うとともに、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。

2. 文化財情報に関する調査研究

ア) 文化財情報の適切な発信に関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。

イ) 展示収蔵施設の学芸員、自治体の担当者などの文化財の実務家を対象に、9月21日に「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」を開催した。

3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトを運用し、ウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じて、当研究所のウェブサイト更新情報、及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国際機関を中心とした取組みに関する情報を発信した。

イ) 2021(令和3)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2020』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

ウ) 研究成果紹介のためのパネル展示をエントランスロビーで行った。令和3年度は無形文化遺産部による「記録で守り伝える無形文化遺産」を展示した。

4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ア) 各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と連携してセキュリティ水準の維持向上に努めた。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携している。

イ) 従来、個別の物理サーバで運用されていたウェブサーバ等を仮想化基盤上に集約し、バックアップサーバの導入を行うなどネットワークの安定運用に努めた。また、テレワーク環境整備の一環としてウイルス対策ソフトをクラウド化した。

論文

・城野誠治：「ものの記憶－記録を遺し伝える－」『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』 pp. 108-133 21.6
ほか4件

発表

・二神葉子：「文化財の記録作成の意義」文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」21.9.21
ほか1件

刊行物

・『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』21.6
・『春日権現験記絵巻十一・巻十二 光学調査報告書』22.3

ウェブサイトアクセスランキング(令和3年度 上位10位まで)

1	ガラス乾板データベース	6	『日本美術年鑑』所載美術界年史(彙報)
2	東京文化財研究所トップ	7	年紀資料集成
3	書画家人名データベース	8	黒田清輝日記(日付別)
4	『日本美術年鑑』所載物故者記事	9	異体字リスト
5	『美術画報』所載図版データベース	10	写真原板データベース(4×5カラー)

ウェブサイトの主な更新履歴(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

年月日	更新内容	関係部局
21.4.6	『日本の芸能を支える技Ⅶ 箏 国井久吉』刊行	無形文化遺産部
21.4.14	『無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書 「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題』公開	無形文化遺産部
21.4.14	『及川尊雄収集 紙媒体資料』公開	無形文化遺産部
21.4.14	『【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」報告書』	無形文化遺産部
21.4.16	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 20 内部造作の保存と修復』公開	保存科学研究センター
21.5.11	『「保存と活用のための展示環境」に関する研究会－照明と色・見えの関係－(令和3年3月4日(木)開催)』の動画公開	保存科学研究センター
21.6.4	無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書 絹織製作技術』公開	無形文化遺産部
21.6.22	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 参加者募集	保存科学研究センター
21.6.24	無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」開催	無形文化遺産部
21.7.28	「琵琶製作の記録 石田克佳」(映像記録) 公開	無形文化遺産部
21.8.31	第14回公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」公開	無形文化遺産部
21.9.30	第55回オープンレクチャー かたちを見る、かたちを読む 開催	文化財情報資料部
21.11.30	「Art news articles」(「美術界年史(彙報)」英訳) 公開	文化財情報資料部
21.12.28	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム3 「伝統芸能と新型コロナウイルス－Good Practiceとは何か－」公開	無形文化遺産部
22.1.17	研究会「考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産」開催	文化遺産国際協力センター
22.2.1	浅田正徹氏採譜楽譜(通称「浅田譜」)原稿の所蔵・デジタル化進捗状況一覧 公開	無形文化遺産部
22.3.1	「及川尊雄収集紙媒体資料データベース」公開	無形文化遺産部

「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」^(④シ05の一部として実施)

文字や写真による文化財や収蔵品の記録作成(ドキュメンテーション)は、調査研究・保存活用のための基礎的なデータを取得する活動である。文化財保護法の改正に伴い、文化財の記録作成の重要性が増している。その一方で、今日主に行われているデジタル媒体での記録に関する技術的な情報は、十分に提供されているとはいえない。そこで、標記のセミナーを開催し、主に行政組織における記録作成及び画像圧縮の原理をテーマとした標記のセミナーを開催した。

日 時：2021(令和3)年9月21日(火) 13:00～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室・会議室

参加者：59名

プログラム：

二神葉子(東京文化財研究所)「文化財の記録作成の意義」

中野慎之(文化庁)「文化財保護と記録作成」

今泉祥子(千葉大学)「デジタル画像圧縮の原理」

無形文化遺産部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第15回無形文化遺産部公開学術講座^(①ム01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「樹木利用の文化―桜をつかう、桜で奏でる―」として、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて無観客収録し、後日、東文研ウェブサイトにて記録映像を公開した。本講座では、日本人に古来より親しまれてきた桜を起点に、樹木利用の視点から伝統芸能、民俗技術における樹木利用の現状と課題を共有し、解決の糸口を模索した。内容は、講演、報告のほか、桜の樹木で胴が作られている小鼓についての実演家インタビュー、小鼓組み立てのデモンストレーション、囃子演奏「水」で構成した。

会 場：東京文化財研究所セミナー室と地下ロビー、及びリモートによる収録

主 催：東京文化財研究所

開催形態：本講座は新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて無観客収録とし、編集した記録映像を2022(令和4)年3月30日より東文研ウェブサイトにて期間限定配信(令和4年度、内容を補追した上で報告書刊行予定)。

プログラム：

【趣旨説明】前原恵美(東京文化財研究所)

【講演】川尻秀樹(岐阜県立森林文化アカデミー)「様々な樹木利用の現状と課題」

【報告】今石みぎわ(東京文化財研究所)「民俗世界における樹木利用―桜を中心に―」

前原恵美(東京文化財研究所)「無形文化財と桜」

【インタビュー】藤舎呂英(藤舎流囃子方)「小鼓という楽器の魅力」

聞き手：前原恵美(東京文化財研究所)

【小鼓組み立てのデモンストレーション】藤舎呂英

【演奏】「水」(作曲：藤舎呂英)

囃子：藤舎呂英、藤舎呂近(以上小鼓)

藤舎雪丸(大鼓)、藤舎英心(太鼓)

笛：福原寛瑞

【座談会】「樹木利用の文化と無形の文化財」

川尻秀樹(岐阜県立森林文化アカデミー)

藤舎呂英(藤舎流囃子方)

今石みぎわ(東京文化財研究所)

前原恵美(東京文化財研究所)



東文研 総合検索 (④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、29件のデータベース、約172万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。

www.tobunken.go.jp/archives/

研究資料データベース (④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、24件のデータベース、10万件余りのデータを公開しており、全てのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。

www.tobunken.go.jp/materials/

インターネット公開 及川尊雄旧蔵 紙媒体資料目録データベース (①ム01の一部として実施)

本目録は、当研究所に寄附された、日本の伝統楽器や関連資料の蒐集家・及川尊雄^{おいかわたか お}氏（1942-2018）旧蔵紙媒体資料（2,208点）のWebデータベースである。先の『及川尊雄収集 紙媒体資料目録』（2021年3月、当研究所無形文化遺産部）刊行後に見つかった資料を加えた上で、当研究所に寄附された資料に絞り込んで、ひとまとまりの資料として捉えた方がよいメモ類などを再整理した。併せて、資料の基本情報に内容に関連するキーワードを加え、より幅広い研究活用に供するWebデータベースとして公開した。

www.tobunken.go.jp/materials/oikawa

いんたんじぶる (①ム02の一部として実施)

無形文化遺産の情報収集・情報発信を目的として作成した一般向けサイトで、改修を行った。「コレクション欄」の「動画アーカイブ」「ボックス」のページから無形文化遺産関連動画、関連PDFへのアクセスが可能。「無形文化遺産総合データベース」への導入的役割を果たすとともに、伝承者と研究者や関係者とのネットワーク構築を目指す。